

3位

李炫昊（イヒョノ）韓国
東進ランゲージスクール

野球が私にくれたプレゼント

皆さんは、幼い頃どのような子供でしたか。私はとても活発でいたずらがひどかったのですが、幼稚園を10か所以上も移りました。

小学校に入ってから、勉強に全く興味が持てず、授業中でも友達と遊んでいました。両親は怒り、叩かれたこともありましたが、反省はその時だけで長くは続かず、両親が仕事から帰る時間になっても、学校のグラウンドで一人で遊んでいました。

そんな私に、先生が野球を勧めてくれました。両親は大反対でしたが、私は諦めることができませんでした。夕方まで怒られることなく遊べるうえに、学校の宿題を減らしてくれるという最高の条件があったからです。なんとか両親を説得して野球を始めると、すぐに野球が大好きになり、試合で活躍することができました。これまで感じたことのない達成感を感じ、いつも仲間と一緒にいられることがとても幸せでした。この時の私には野球が全てで、プロ野球選手になることが夢でした。

中学に入ってから、私の野球人生は順調そのもので、野球の強い高校へ進学しました。しかし高校での練習と競争はとても厳しく、仲間であったはずのチームメイトが、いつしかライバルとなっていきました。

そんな熾烈なレギュラー争いの中、私は試合中に肩を骨折してしまいました。手術をしてようやく復帰した私を待っていたのは、長いスランプでした。

失った時間を取り戻すために、私はチームメイトの2倍以上の努力をしました。しかし、レギュラーに戻ることはできませんでした。努力しても努力しても成果が表れず、焦りだけが大きくなりました。

この時、初めて家出をしました。
心細くて、家に帰りたくなりましたが、恥ずかしくて帰れません。
そして私は自分自身と向き合いました。
なぜ、逃げ出したのか。
辛くても諦めず、努力を続けなければいいのに。
私はこんなにも弱い人間ではないはずなのに。
考えれば考えるほど、自分自身に納得がいかず、悔しくて涙が流れてきました。

その中でも、思い出すのは野球のことでした。そして、気づいたのです。私は自分自身が負けることが許せず、常に勝つことだけを望んでいたことを。野球はいくら練習しても、試合では勝つことも負けることもあります。それは当然のことなのに、なぜ逃げ出してしまったのか。

それに気づいた時、また野球をやってみようという勇気が生まれました。そして、もう二度と諦めない覚悟もできました。

その後、家へ帰り、野球部へ戻りましたが、逃げ出した私を野球部の皆は温かく迎えてくれました。野球部のメンバーはライバルでもありましたが、その前に大切な仲間でした。

その後、一生懸命努力した結果、大学のスカウトを受けるまでになりましたが、自分の実力の限界を感じていたため、断りました。

高校卒業後、チームメートの紹介で、趣味で野球をするチームに入りました。それは日本語学院のチームでした。この出会いがまた私に新しい世界を見せてくれました。チームメートである日本人と友達になり、日本語も勉強して、一緒に日本へ旅行もしました。

そして、出会ったのです。日本でおいしいスイーツに。この時、私に新しい夢ができました。日本でお菓子を学び、韓国で店を開くという夢です。

私は今、夢の第一歩である日本留学をしています。日本語学校卒業後は、製菓学校に通う予定です。パティシエになるという夢は、野球とは全く関係がなさそうですが、野球が全ての縁をつなげてくれたのです。

私も皆さんも、これからの人生、楽しいことばかりではなく、辛いことが必ずあるでしょう。

でも、諦めないでください。

私はもう逃げ出しません。

私には、野球がくれた仲間と、大切な夢、そして諦めない心があるからです。